

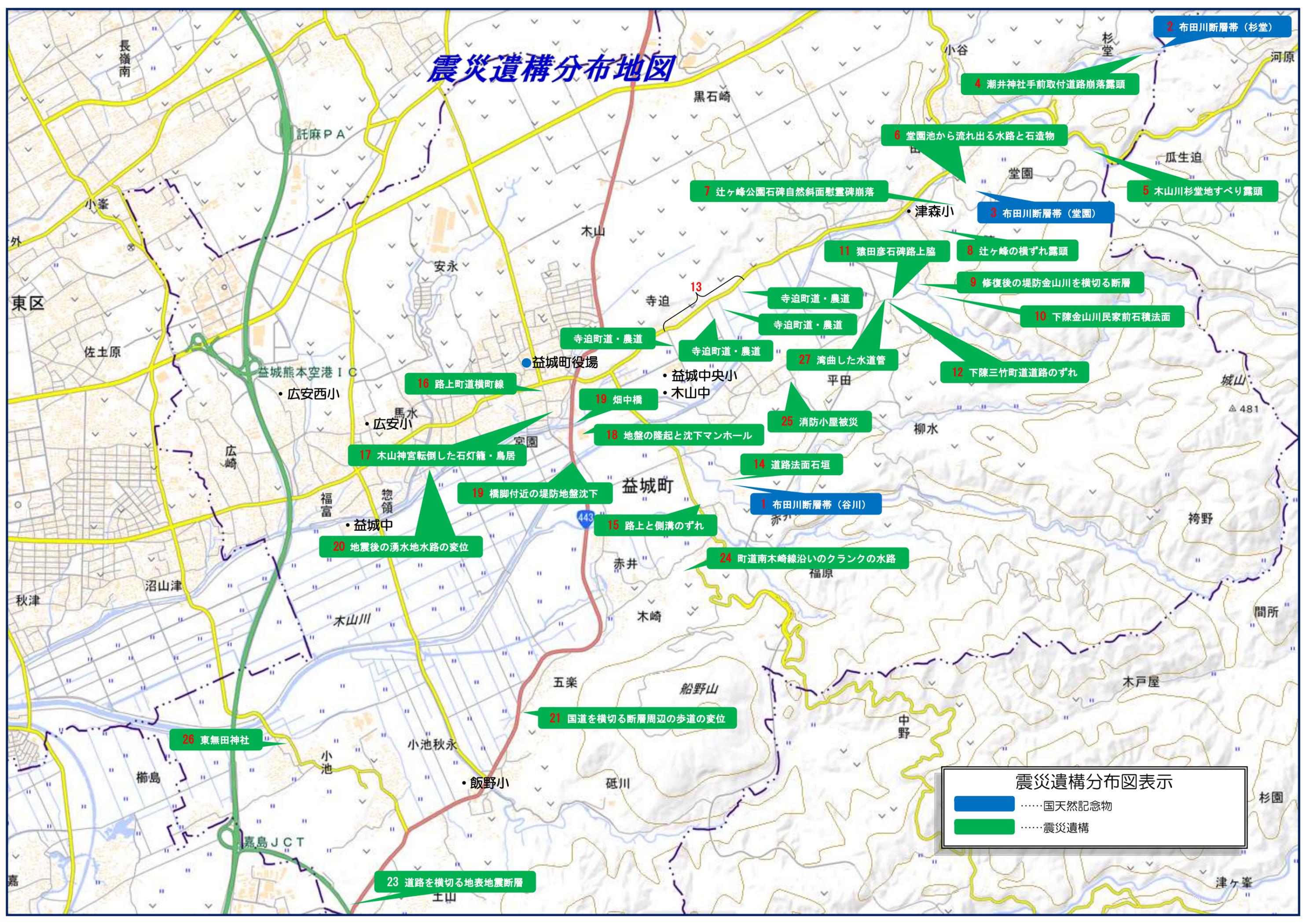
「平成 2 8 年熊本地震」震災遺構リスト

益 城 町

平成28年熊本地震に係る震災遺構等候補一覧

No.	種別	対象物件名称	所在地	現在の状態	所有者等	現物保存について				記録保存について	
						現物保存可否	現物保存可否コメント (理由、条件)	現物保存に向けての協議先		記録保存可否	記録保存方法
								①まちづくり意向	②権利関係		
1	断層	布田川断層帯(福原地区)	益城町福原1770-1	応急的に保護	個人	○	国の天然記念物指定	—	—	○	アーカイブ化
2	断層	布田川断層帯(杉堂地区)	益城町杉堂1338番地 外5筆	応急的に保護	津森神宮・益城町・杉堂地区	○	国の天然記念物指定	—	—	○	アーカイブ化
3	断層	布田川断層帯(堂園地区)	益城町上陳649 外8筆	現状保存	個人8名	○	国の天然記念物指定	—	—	○	アーカイブ化
4	地すべり跡	潮井神社手前取付道路崩落露頭	潮井水源公園計画地内	現状保存	益城町	×	危険箇所のため安全を優先	—	—	○	アーカイブ化
5	地すべり跡	木山川杉堂地すべり露頭	杉堂地内	現状保存	一部個人	×	復旧しないと水路の使用ができない	—	—	○	アーカイブ化
6	断層	堂園池から流れ出る水路と石造物	上陳地内	保存協議中	益城町	△	水路の一部について、残し方を協議している状況	—	—	○	アーカイブ化
7	建物	辻ヶ峰公園石碑自然斜面慰霊碑崩落	上陳地内	一部復旧済	益城町	×	復旧に向けての動きを開始済み	—	—	○	アーカイブ化
8	断層	辻ヶ峰崖の横ずれ露頭	上陳地内	現状保存	個人	個人	地元の意向及び所有者の理解があれば検討可能。	上陳・下陳・北向まち協	地権者(個人)	○	アーカイブ化
9	断層	修復後の堤防金山川を横切る断層	下陳地内	復旧済	熊本県	×	復旧済み	—	—	○	アーカイブ化
10	断層	下陳金山川上流民家前石積法面	下陳地内	現状保存	個人	個人	地元の意向及び所有者の理解があれば検討可能。	上陳・下陳・北向まち協	地権者(個人)	○	アーカイブ化
11	道路	猿田彦石碑路上脇	下陳地内	現状保存	益城町	×	交通安全施設(カーブミラー)復旧のために復旧せざるを得ず。	—	—	○	アーカイブ化
12	道路	下陳三竹町道道路のずれ	下陳地内	復旧済	益城町	×	復旧済み	—	—	○	アーカイブ化
13	道路	寺迫農道・町道	寺迫地内	現状保存	益城町	○	現状の形状で復旧済(亀裂のみ修復、ずれは残る)	—	—	○	アーカイブ化
14	道路	道路法面石垣	福原地内	復旧済	益城町	×	道路交通安全を優先(路肩転落の危険性あり)?	—	—	○	アーカイブ化
15	道路	路上と側溝のズレ	県道益城矢部線福原	復旧済	熊本県	×	道路交通安全を優先(交通量多い道路のため)?	—	—	○	アーカイブ化
16	道路	路上町道横町線	木山地内(横町)	現状保存	益城町	×	道路を大幅に拡幅する予定?	—	—	○	アーカイブ化
17	建物	木山神社転倒した石灯籠・鳥居	木山地内(横町)	一部復旧済	木山神宮	△	所有者の意向次第(「復旧したい」という思いが強い)	蛭子町まち協、区画整理協議会	所有者(木山神宮)	○	アーカイブ化
18	液状化電柱	地盤の隆起と沈下マンホール	総合運動公園周辺	現状保存	益城町	×	道路上に突起が存在する状態となっており危険	—	—	○	アーカイブ化
19	橋梁	橋脚付近の堤防地盤沈下	国道443号新木山橋	復旧済	国	×	復旧済み?	—	—	○	アーカイブ化
20	その他	地震後の湧水水路の変位	安永地内住宅	現状保存	個人	個人	地元の意向及び所有者の理解があれば検討可能。	安永まち協	地権者(個人)	○	アーカイブ化
21	道路	国道を横切る断層周辺の歩道の変位	上砥川地内	復旧済	国	×	復旧済み?	—	—	○	アーカイブ化
22	地すべり跡	砥川溶岩露頭	中砥川下鶴入口	現状保存	一部個人	×	下流に危険が及ぶ可能性あり。個人所有だが保存は考えない。	—	—	○	アーカイブ化
23	道路	道路を横切る地表地震断層	国道443土山交差点	復旧済	国	×	復旧済み	—	—	○	アーカイブ化
24	道路	町道南木崎線沿いのクランクの水路	益城町福原6346付近	現状保存	益城町	○	現状の形状で復旧済(クランク残ったまま復旧)	—	—	○	アーカイブ化
25	建物	平田中公民館敷地内消防小屋	平田中公民館	現状保存	平田地区	地元	まち協からの提案(まちづくり提案)にも含まれている!	平田まち協	—	○	アーカイブ化
26	建物	東無田神社	益城町島田地内	現状保存	島田地区	×	既に復旧にかかっている状況	—	—	○	アーカイブ化
27	その他	湾曲した水道管	北向地区内消防小屋付近	現状保存	益城町	○	町の水道センターに移設保存済み	—	—	○	アーカイブ化
28	橋梁	畑中橋	国道443号畑中橋	現状保存	国	△	国としての復旧方針を要確認	—	県復興整備課(熊本土木)	○	アーカイブ化

震災遺構分布地図



2 布田川断層帯 (杉堂)

4 潮井神社手前取付道路崩落露頭

6 堂園池から流れ出る水路と石造物

5 木山川杉堂地すべり露頭

3 布田川断層帯 (堂園)

7 辻ヶ峰公園石碑自然斜面慰霊碑崩落

11 猿田彦石碑路上脇

8 辻ヶ峰の横ずれ露頭

9 修復後の堤防金山川を横切る断層

10 下陳金山川民家前石積法面

寺迫町道・農道

寺迫町道・農道

寺迫町道・農道

27 湾曲した水道管

12 下陳三竹町道道路のずれ

16 路上町道横町線

19 畑中橋

25 消防小屋被災

18 地盤の隆起と沈下マンホール

14 道路法面石垣

17 木山神宮転倒した石灯籠・鳥居

19 橋脚付近の堤防地盤沈下

1 布田川断層帯 (谷川)

15 路上と側溝のずれ

24 町道南木崎線沿いのクランクの水路

20 地震後の湧水地水路の変位

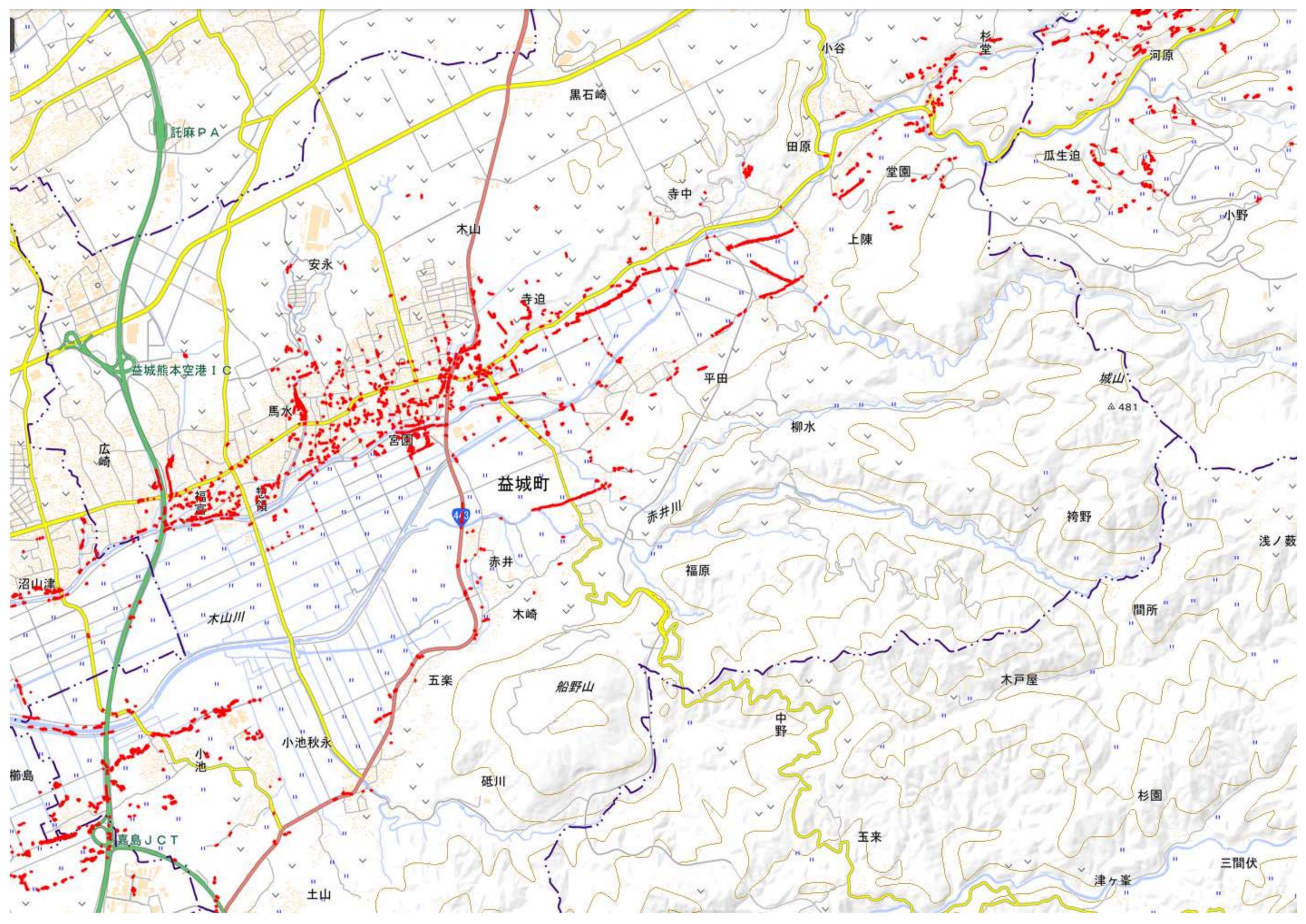
21 国道を横切る断層周辺の歩道の変位

26 東無田神社

23 道路を横切る地表地震断層

震災遺構分布図表示

- 国天然記念物
- 震災遺構



熊本地震震災遺構保存調査票

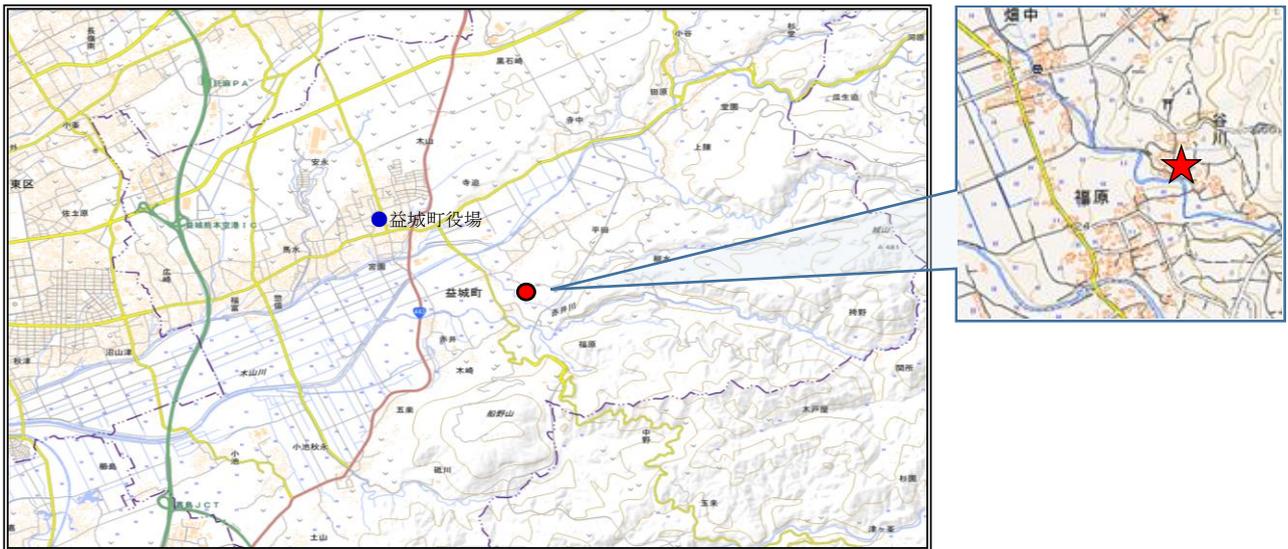
No.

1

益城町
教育委員会

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町地権者	福原 家屋・宅地（整地面）	福原1770番地	・地表地震断層分岐が宅地内で観察でき、変位の大きさを実感できる。	・家屋納屋現状保存 ・地表地震断層現状保存	益城町文化財（天然記念物）

現地状況説明図

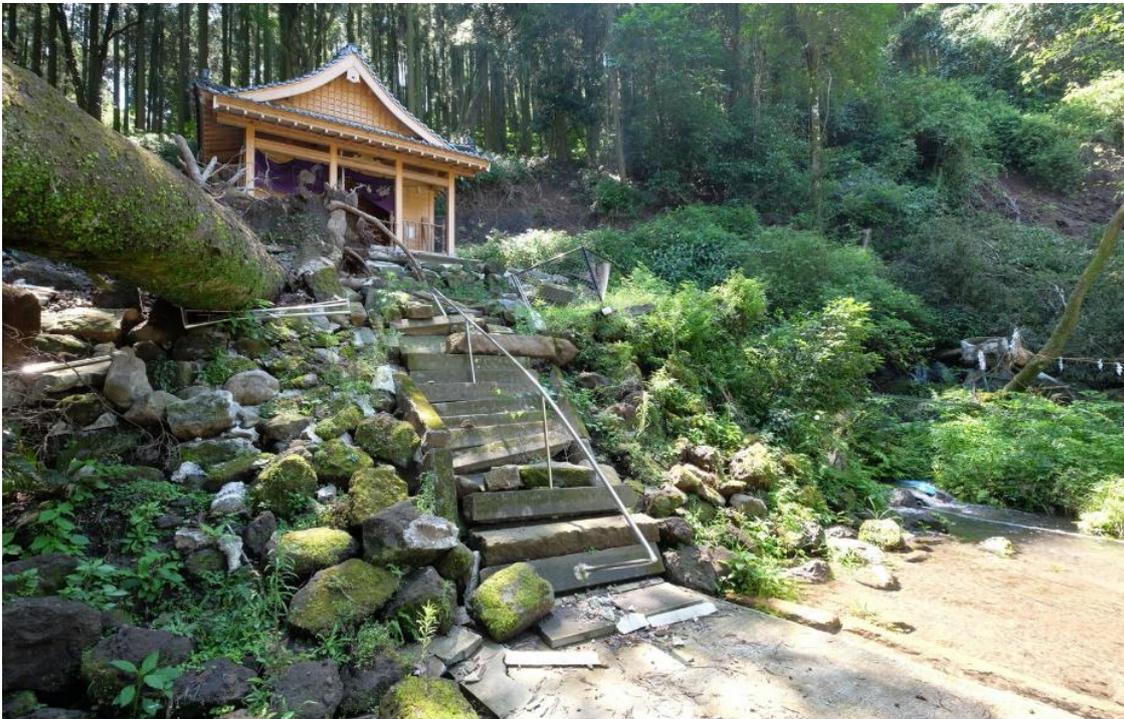


保存活用・維持管理

- ・母屋を資料展示
- ・納屋を補強し現状を保存し、土地の変位との関係を観察する。
- ・建物の補修、保存遺構の維持管理が伴う。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
都市計画 神社庁	潮井神社・湧水公園 自然斜面・石積	杉堂1341番地 境内地	・布田川断層の起点的な場所に位置し、周辺地形の特徴と共に、湧水と断層の関係を観察できる。	・社、石積崩落の 現状保存	益城町文化財 (天然記念物)

現地状況説明図

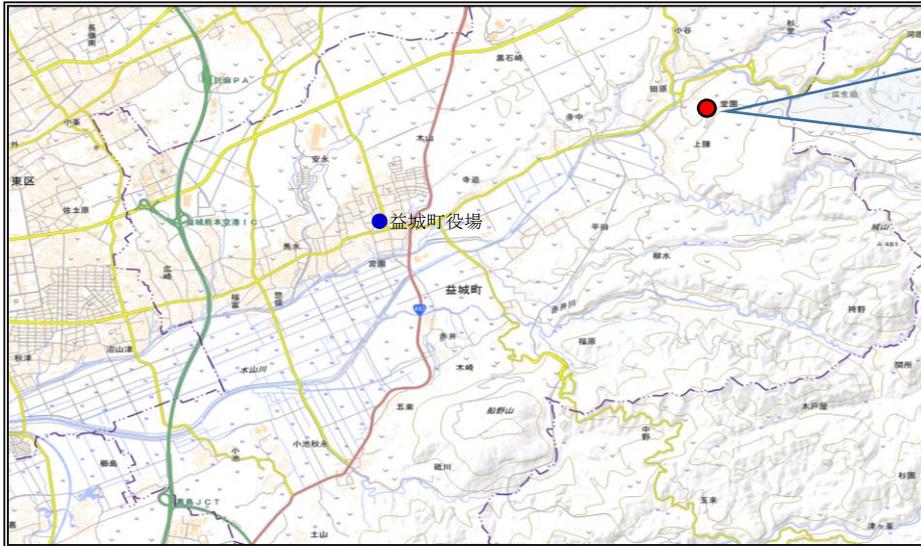


保存活用・維持管理

- ・以前からの周辺公園化計画と合わせて周辺整備を行い、周辺地形の特徴と阿蘇の伏流水の原理を実感できる環境として整備する。
- ・社の後方のがけの修復と社、石積部分の補強を行う。
- ・文化と歴史、自然と人々のくらしをテーマとした公園と施設を備える場とする。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
農政	堂園畑地	上陳地内	・布田川断層の活動を広い範囲一望でき、観察できる。	・畔の変位を保存 ・畑地、西の猿田彦付近の水路、農道の変位の保存	町文化財候補

現地状況説明図



保存活用・維持管理

- ・畑地は、日常的には耕作を行い、畔の変位を南東の農道から観察する。畔に蛇のヒゲ等の植栽を施す。
- ・辻ヶ峰から杉堂、河原方面への地表地震断層を見通せる場所として活用を図る。
- ・大蛇伝説と地震など、自然現象と人々の暮らしを関連付けて考える場所とする。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
都市計画	潮井神社手前 取付道路崩落露頭	潮井水源 公園計画地内	・布田川断層の起点的な場所に位置し、周辺地形の特徴と共に、阿蘇火山の堆積物と断層涯を観察できる。	・崩落露頭と水路、道路現状保存	

現地状況説明図



保存活用・維持管理

- ・断層涯による、生活道路、水路、水道の寸断を物語る崩落である。
- ・露頭の観察によって、貴重な付近の地質を知ることができる。
- ・経年劣化や土砂崩れ対策は、必要最小限にとどめ、観察標本として保存を行う。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
建設都市計画	木山川杉堂地すべり露頭	杉堂地内	・布田川断層地震によって崩落した大きな露頭で観察に適している。	・当面現状のままとし、防災上の改修後は、写真説明板等の設置を行う。	・観察場所の確保等、お寺への協力依頼。

現地状況説明図

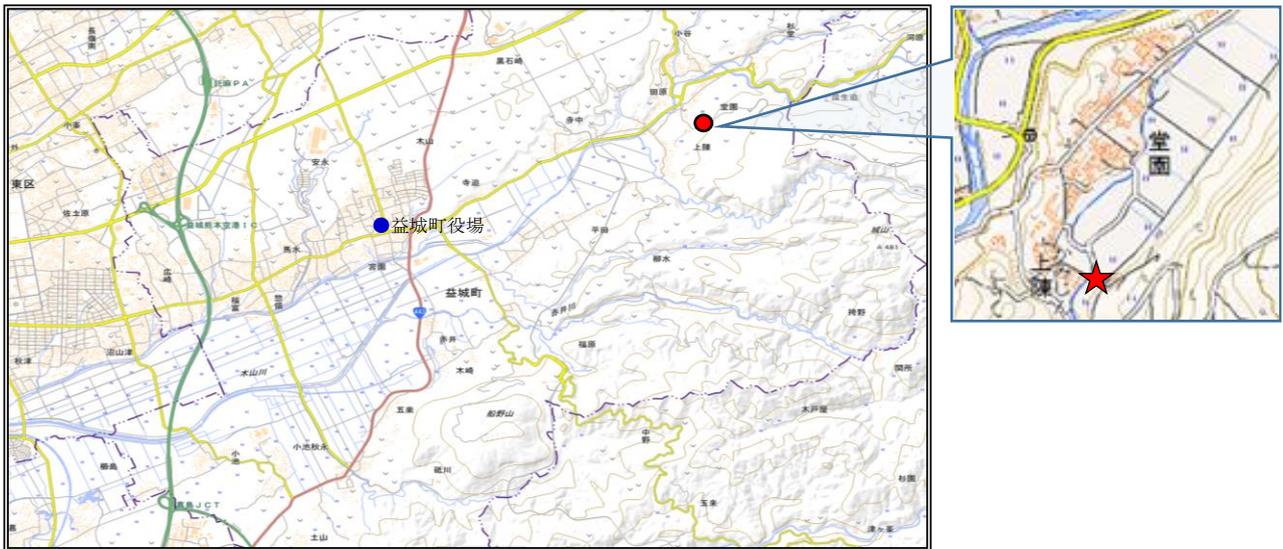


保存活用・維持管理

- ・当面の崩落の危険を排除する手立てが必要である。
- ・上陳から堂園、杉堂へつながる地表地震断層をたどる回廊として、解説ポイントを設けて、益城平野が構成されていくジオを実感できるゾーンとする。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町	堂園池から流れ出る水路と猿田彦	上陳地内	・布田川断層の活動を広い範囲一望でき、観察できる。	・用水路の変位を保存 ・畑地、西の猿田彦付近の水路、農道の変位の保存	

現地状況説明図

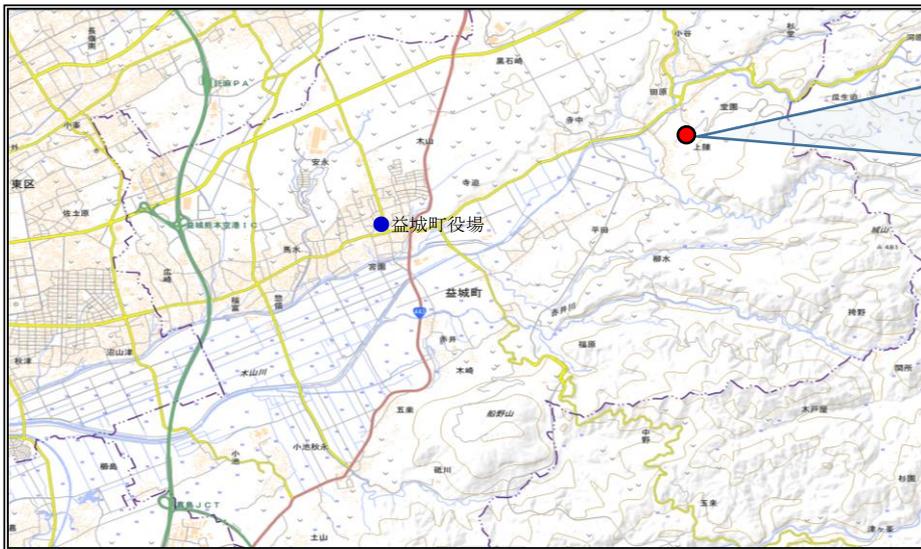


保存活用・維持管理

- ・辻ヶ峰から杉堂、河原方面への地表地震断層を見通せる場所として活用を図る。
- ・周辺道路は補修し水路のずれを現状保存する。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
都市計画地域	辻ヶ峰公園石碑 自然斜面慰霊碑崩落	上陳地内	・峰を縦断する断層地震の破壊力を見ることができる。 ・布田川断層・木山断層を一望できる。	・慰霊碑の一部と駐車場のずれの変位を現状のまま保存する。	

現地状況説明図



保存活用・維持管理

- ・2つの慰霊碑、忠魂碑は修復をし、その一部を遺構として残す工夫や震災直後の写真掲示による比較ができるようにする。
- ・公園から堂園、杉堂方面と益城平野全体、町内を一望できる公園として活用を図る。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町	辻ヶ峰崖の横ずれ露頭	上陳地内	・布田川断層上にある、山の切り立った採土場の露頭に崖の横ずれを見ることができる。	現状保存	

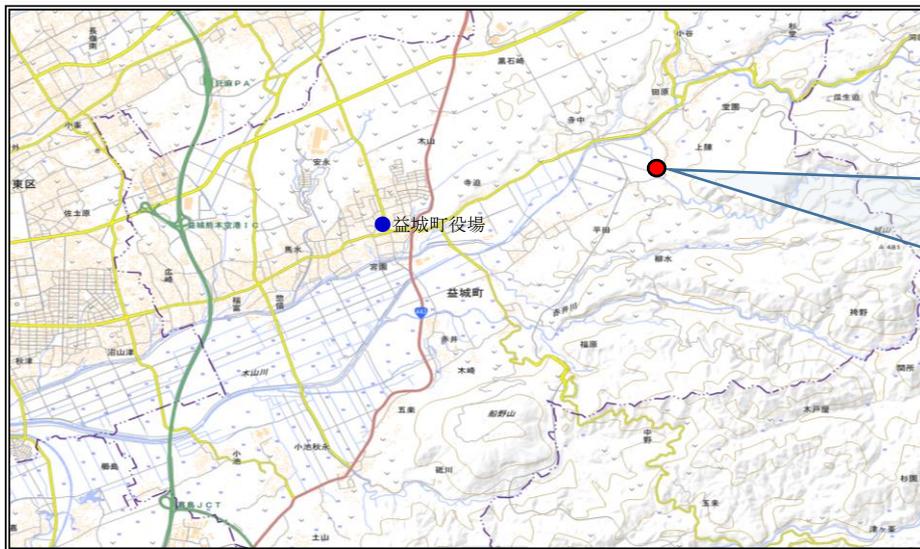
現地状況説明図



保存活用・維持管理

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
県	修復後の堤防 金山川を横切る断層	下陳地内	・河川を横切る堤防から布田川断層を東西に見通す	・復旧された堤防を利用する	

現地状況説明図

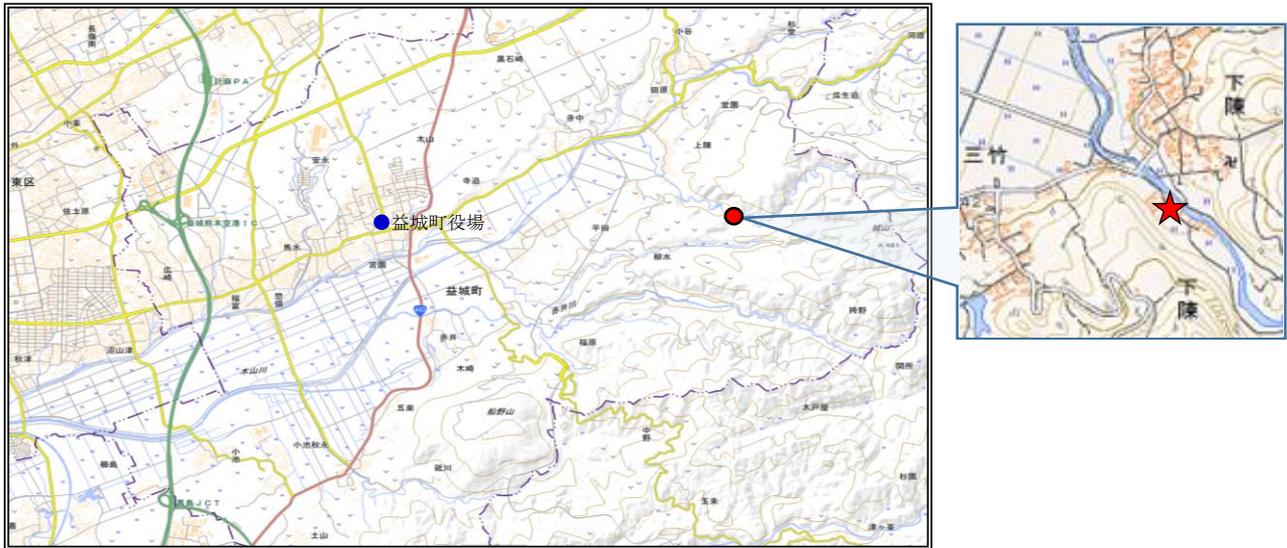


保存活用・維持管理

- ・ 可能ならば、金山川に隣接する農道と他の畔の変位部分だけを保存する。
- ・ 畔の維持管理を蛇のヒゲなどの植栽によって管理する必要がある。
- ・ 修理箇所を震災遺構として位置づけ、この場所から布田川断層を見通す。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町地権者	下陳金山川上流民家前石積法面	下陳地内	・金山川を横切る最上部で50cmのズレがみられ、周辺の家屋等の倒壊は全く見られない。	・民家前の畑法面の現状保存	

現地状況説明図

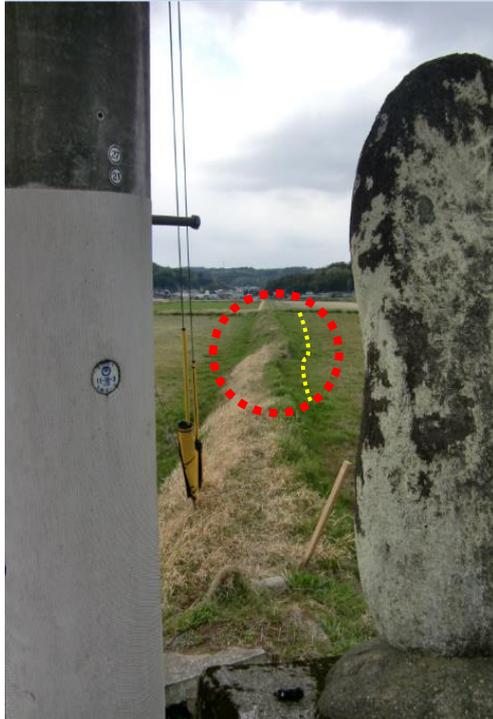


保存活用・維持管理

- ・周辺の畑の畔などにみられる変位を残すことで、中心となる地表地震断層と周辺付近の地表の動きを知ることができる。
- ・当初の補強や保存工事を行なえば、維持管理の手間は必要としない。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町地権者	猿田彦石碑 路上脇	下陳 三竹地内	・傾いた石碑と電柱の間から前方の田の畔を見ることができる。地震による変位を実感できる。	・石碑と後方下の用水の変位を、補強して現状保存	

現地状況説明図



保存活用・維持管理

- ・石碑付近の変位と、畔などの土地の変位を視覚的にとらえることができる。
- ・当初の補強や保存工事を行なえば、維持管理の手間は必要としない。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町地権者	下陳三竹町道 道路のずれ	下陳 三竹地内	・布田川断層による道路のずれが水路を境として変位が見られる。 ・クランク状の生活道路となっている。(今回拡大した)	・道路をクランク状に現状保存	

現地状況説明図

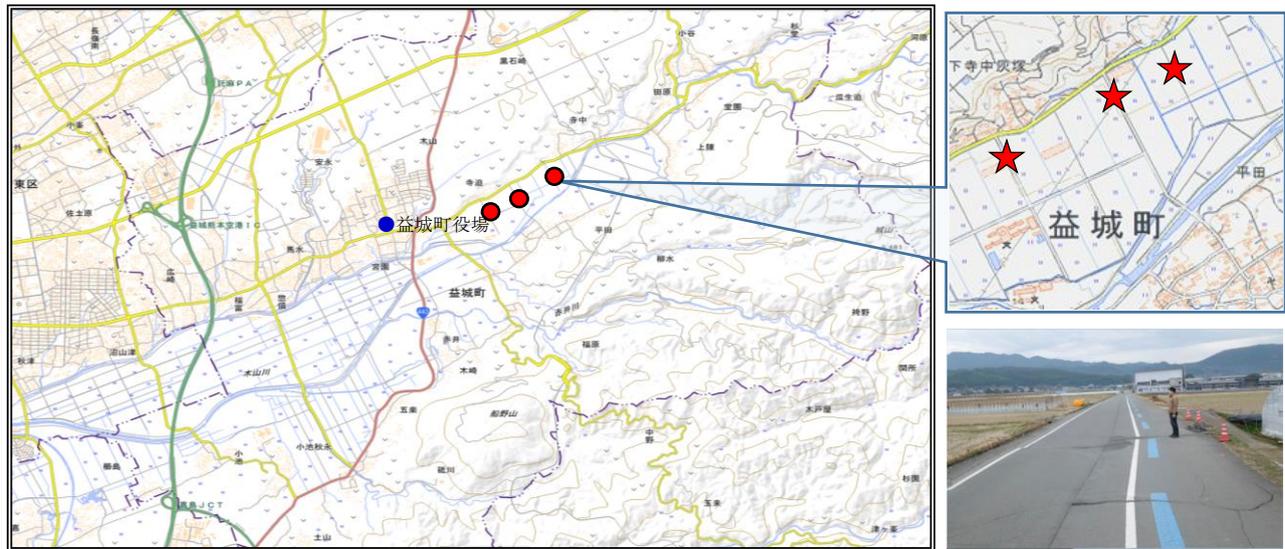


保存活用・維持管理

- ・今回のズレ幅が分かるように用水路や路面に印をつけ、視覚的に見えるようにする。
- ・道路として現状のまま修復して、生活道路として活用する。
- ・当初の補強や保存工事を行なえば、維持管理の手間は必要としない。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町地権者	寺迫農道	下寺中・寺迫 県道高森線への農道	・木山断層の活動を東西に見通せ、観察できる ・益城町市街地中心部に大きな被害を及ぼした地表断層の存在を示している。	・用水路の変位部分の保存	

現地状況説明図

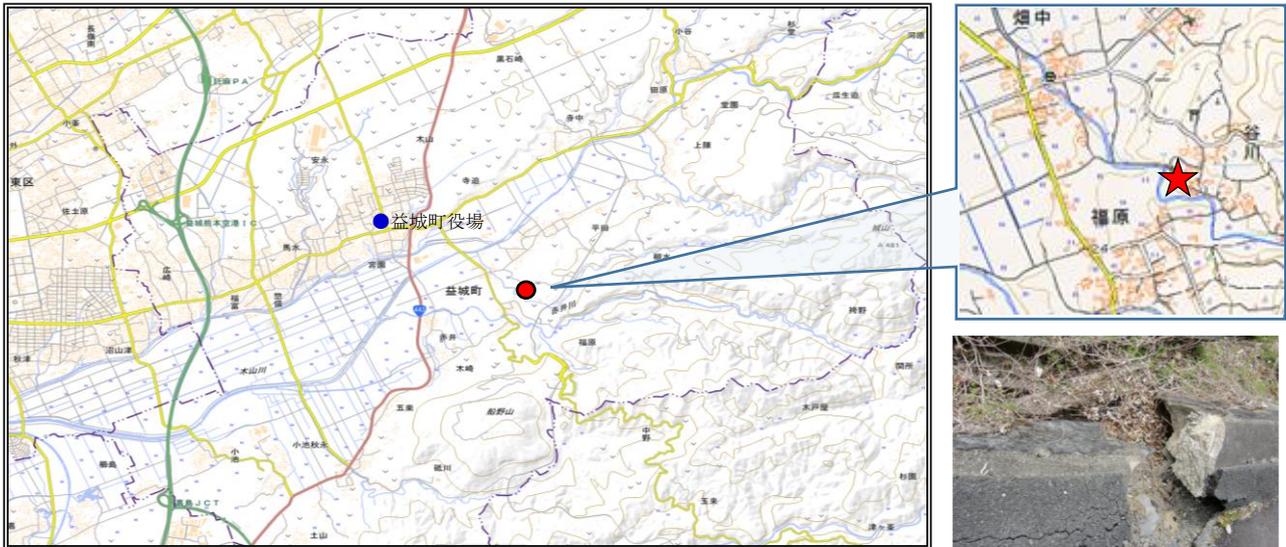


保存活用・維持管理

- ・農道の水路の変位部分だけを残し、ポールを立て、見通せるようにし、地表のずれの方向性を視覚的に見えるようにする。道路脇用水や法面で両脇を残せるものは残す。
- ・道路は、修復し通常通りの使用を行う。当初の補強や保存工事を行えば、維持管理の手間は必要としない。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町地権者	道路法面石垣	福原谷川地内	<ul style="list-style-type: none"> ・福原保存家屋から伸びる断層による法面の変位が見える。 ・布田川断層が赤井方面、飯野へと伸びているのを見通すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見える部分だけを保存する。 	

現地状況説明図

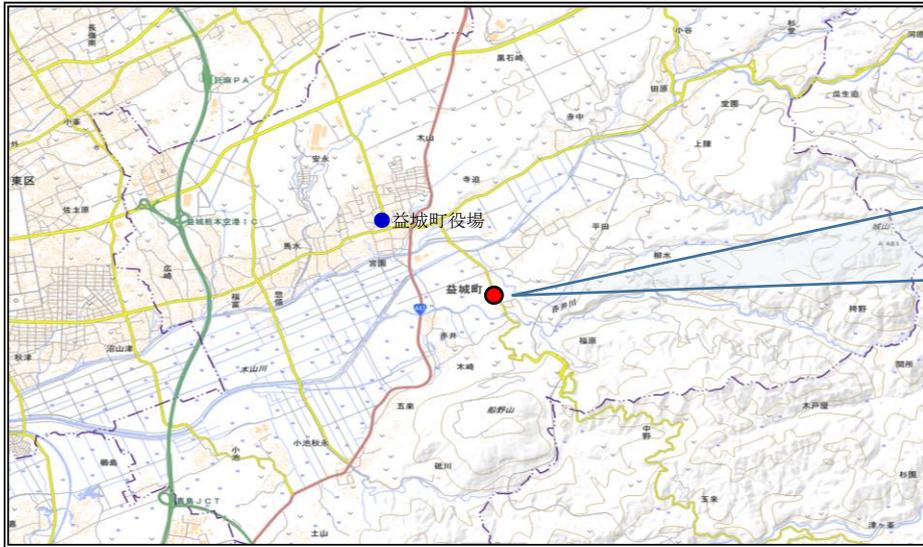


保存活用・維持管理

- ・石垣の組み合わせのズレによって、地震による変位が見えやすくなってる。
- ・当初の補強や保存工事を行ない、維持管理の手間が要らないようにする。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
県地権者	路上と側溝のズレ	県道益城矢部線 福原	・布田川断層が赤井方面、飯野方面へと伸びているのを見通すことができる。	・変位の見える部分だけを保存する。	

現地状況説明図



保存活用・維持管理

- ・身近なところで地表断層地震の変位が見られ、布田川断層のつながりが実感できる場所である。
- ・当初の補強や保存工事を行なえば、維持管理の手間は必要としない。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町県	路上 町道横町線	木山横町	・木山断層が市街地中心を 通って大きな被害をもたらした。町内を横切る鮮明な 地表地震断層である。	・薬局側の側溝と 路肩の現状保存	

現地状況説明図



保存活用・維持管理

- ・町道の拡幅工事が考えられるので、片側の側溝のずれの部分だけを残す。
- ・当初の補強や保存工事を行なえば、維持管理の手間は必要としない。
- ・路側帯の白線を震災前の場所に引き、道路のずれを視覚的に実感できる工夫を行う。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町 神社庁 神社庁	木山神社 転倒した石灯笼・鳥居	木山横町	強振動を視覚的に観察可能	境内内の一部保存	

現地状況説明図

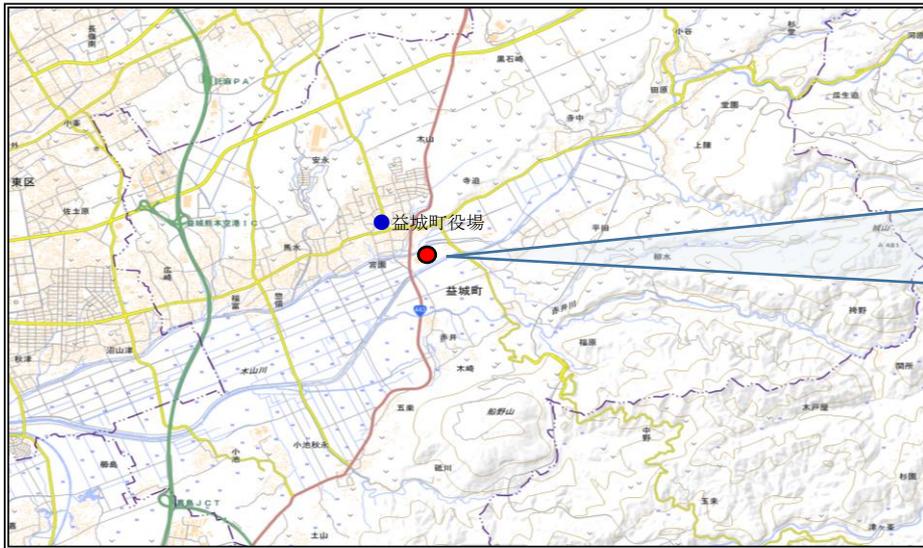


保存活用・維持管理

- ・地震の威力が分かる場所の一部を囲い、復旧復興の姿と比較して遺構として残す。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町	地盤の隆起と沈下 マンホール	体育館・交流 情報センター 周辺	・地震による地表面の変位 を実感することができる。	・建物の邪魔にならないところに柵 をして保存	

現地状況説明図



保存活用・維持管理

- ・交流情報センターを震災アーカイブの情報発信拠点として活用し、関連づけた震災遺構として活用する。（身近な震災遺構）
- ・当初の補強や保存工事を行なえば、維持管理の手間は必要としない。
- ・多くの人が集う場所であり、安全面の対策が必要である。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
	橋脚付近の堤防 地盤沈下	国道443号 新木山橋	地表地震による河川の地盤沈下を視覚的に観察できる。	沈下した元の路面と橋脚部分の保存	

現地状況説明図



保存活用・維持管理

- ・河川工事の妨げにならない程度に、橋脚に対する路面の沈下が分かる部分を残し、地震による変位を視覚的に実感する。
- ・堤防部分は歩道として活用し、保存部分については、進入できないような活用を図る。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町地権者	地震後の湧水地 水路の変位	安永住宅地内	阿蘇火山の堆積物と断層の関係が分かる	湧水の活用の視点から考える。	

現地状況説明図

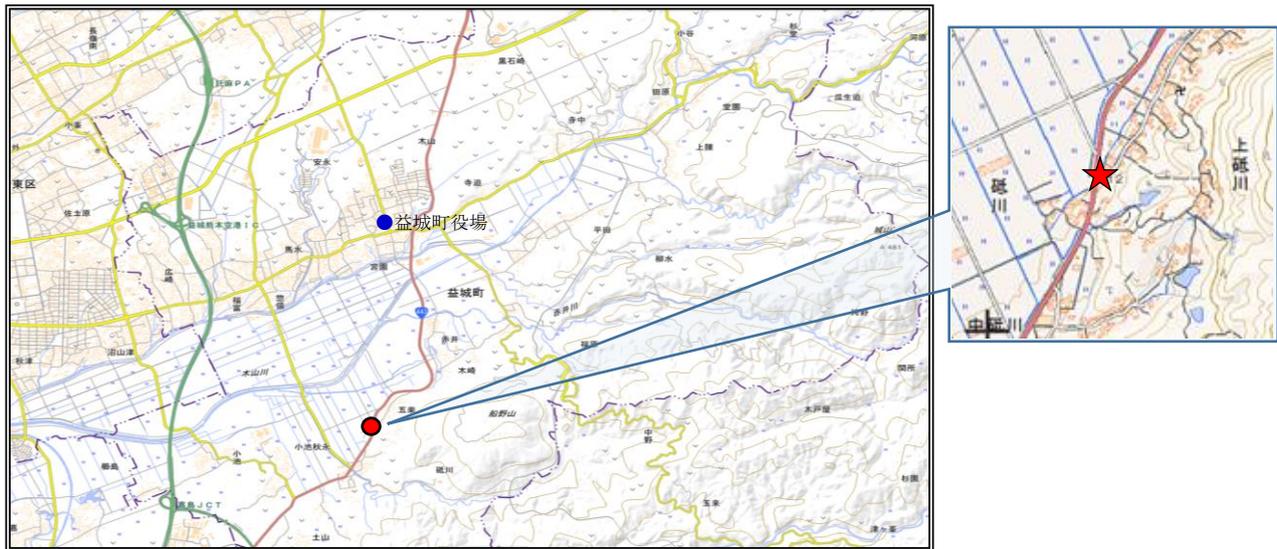


保存活用・維持管理

- ・町内の湧水（新たな湧水）を排水路近くで、汲み取れるようにし、非常災害時の活用できるように、防災マップ等に記す。
- ・住宅地内にある、地震による変位で、残せるものは残す。
- ・阿蘇火山と断層地震による恵みである湧水を、遊水地として活用する。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
国町	国道を横切る断層周辺の歩道の変位	上砥川地内	布田川断層が西に延びる様子を視覚的にとらえることができる。	変位の一部で通行の妨げにならない範囲	

現地状況説明図

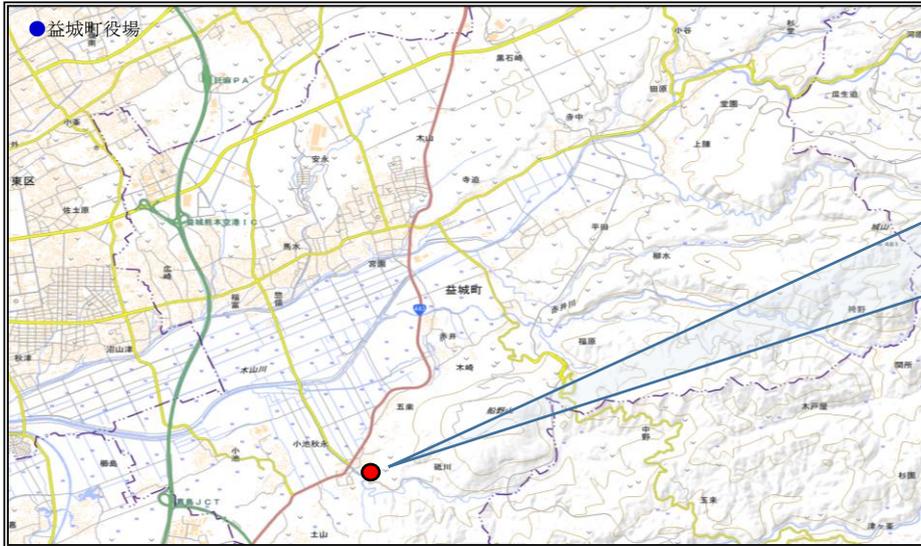


保存活用・維持管理

- ・国道に交わる町道部分の変位で、側溝やずれによる段差を残す。（通行の邪魔にならない場所）
- ・地表地震断層の連続性が分かる場所として活用する。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
	砥川溶岩露頭	中砥川下鶴入口	・砥川溶岩が断層により熊本平野にずれ落ち、阿蘇火山堆積物によって湧水をもたらしている。	現状保存	

現地状況説明図

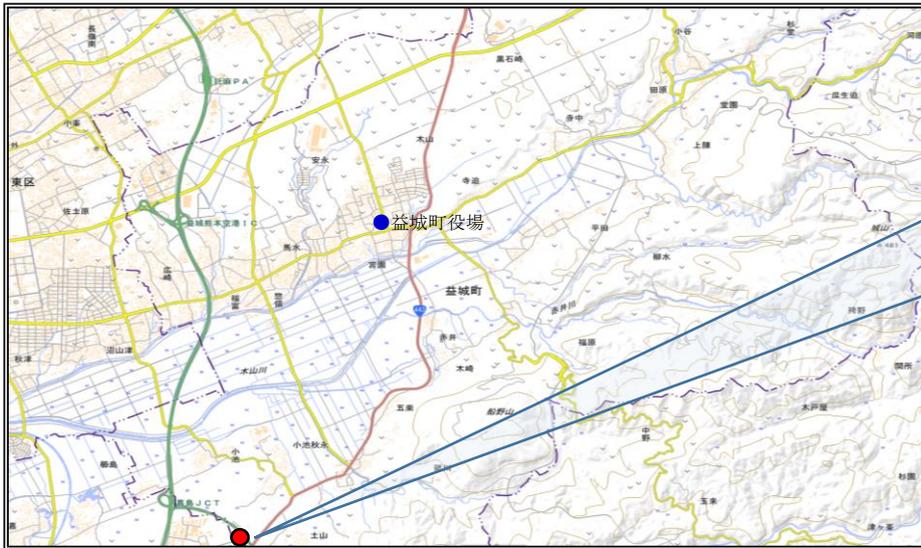


保存活用・維持管理

・阿蘇の伏流水として、熊本平野の湧水をもたらしている原因が、断層により形成された砥川溶岩の上に、阿蘇火山の火砕流が堆積しているためであることを説明できる場所である。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
国 県	道路を横切る 地表地震断層	国道443 土山交差点	布田川断層が西に延び日奈久断層へつながる様子を視覚的にとらえることができる。	変位の一部で通行の妨げにならない範囲	

現地状況説明図

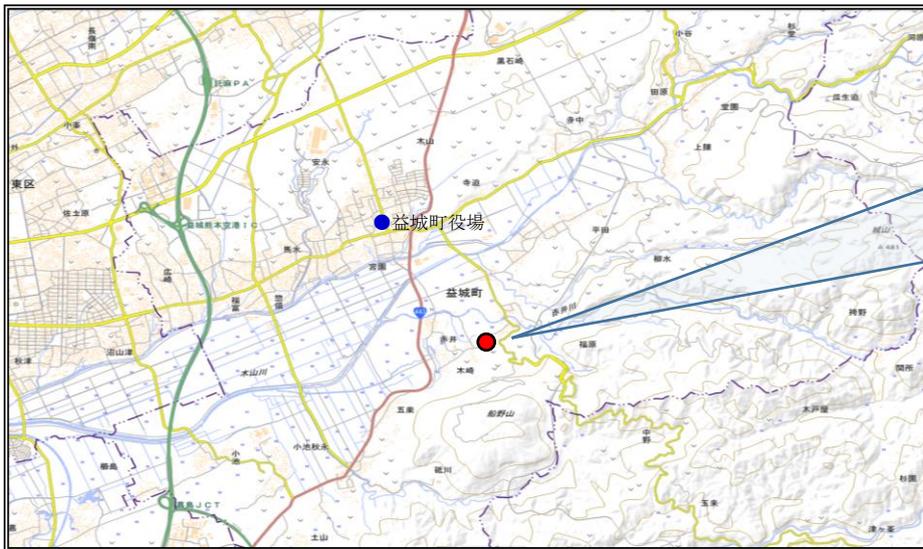


保存活用・維持管理

・高速道路と県道の管理下で、困難な面もあるが、断層の連続性を視覚的に実感できる場所として保存したい。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町	横ずれによる町道南木崎線沿いのクランクの水路	(福原6346付近)	水路の横ずれをそのまま見られるような形で保存。 (機能は回復)	水路の横ずれをそのまま見られるような形で保存。 (機能は回復)	町農政課

現地状況説明図



保存活用・維持管理

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町	消防小屋内を断層が横切り、小屋内も当時のままの状態を保っている。	平田中公民館敷地内	布田川断層周辺の地表地震断層で、変位の連続性を見ることができる貴重な場所である。	地域との協議が可能であれば、小屋の補強を施して当時のままの状態を保存	

現地状況説明図

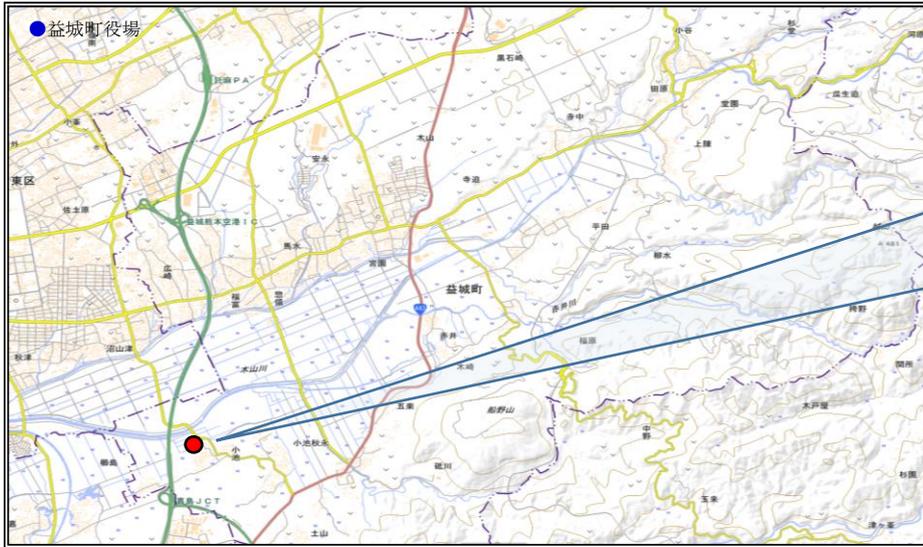


保存活用・維持管理

平田中地域の公民館敷地内にあり、建物の補強は必要であるが、現状保存をし、地域消防の震災時の初期対応の状況を想像させるものである。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町 神社庁	東無田神社 転倒した石灯籠・鳥居	東無田 (島田)	強振動を視覚的に観察可能	境内内の一部保存	

現地状況説明図



保存活用・維持管理

- ・地震の威力が分かる場所の一部を囲い、復旧復興の姿と比較して遺構として残す。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
町	地下に埋まった水道管が地表断層のずれによって曲がったもの	北向地区内 消防小屋付近	断層のずれがあった部分で鉄管に与える力を実感できる。	鉄管の保存展示	

現地状況説明図

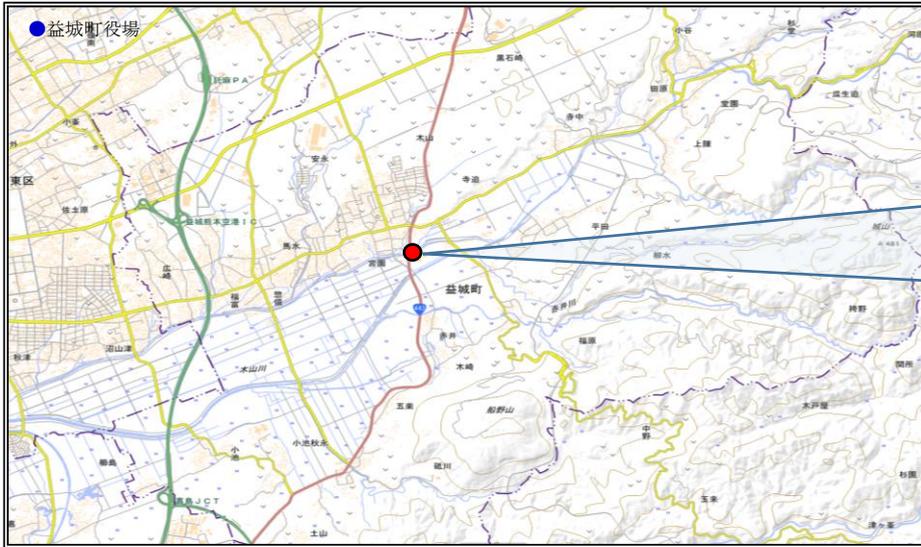


保存活用・維持管理

生活を支える水道をはじめとするライフラインに及ぼす地震の脅威を視覚的に見ることができる。断層のずれを横切った地点でしか見ることができない変形である。

作業区分	震災遺構・変状位置	所在地	学術的価値・評価	保存方針	備考
国県	堤防と橋の間でずれが生じた親柱	国道443号 畑中橋	橋の欄干と親柱のずれを視覚的に実感することができる	現状保存	

現地状況説明図



保存活用・維持管理

町中心部へ向けて走る木山断層の地表地震断層のずれを示しているもので、橋や道路に大きな影響を及ぼさないもので価値がある。